

樹脂製メータきょう（小 中）登録仕様書

横浜市水道局

整理番号 108

1 目的

この仕様書は、横浜市水道局（以下「水道局」という。）が指定する給水補助材料（以下「横浜型材料」という。）について、形状寸法、規格、構造及び材質等を定め、給水補助材料が有する性能を明確にするとともに、製作を希望するもの（以下「製作者等」という。）に対し、登録をするうえで必要な事項を定めることにより、横浜市における給水装置工事等に係わる事業全般を円滑に運営することを目的とする。

2 登録共通事項

製作者等は、製作しようとする横浜型材料について、工事用材料製作申請書（第1号様式）を提出したのち、この仕様書に定める事項のほか、参考図、その他関係法令を遵守し、試作品を1体製作したのち、試作品のほか、試作品に対する各試験成績表、製作図、その他関係書類等を水道局に2部提出しなければならない。

水道局は、製作者等から提出された、試作品、各試験成績表、製作図、その他関係書類等を確認し、製作者等に書面をもって可否を通知しなければならない。

3 構造

- (1) メータきょうは、四方受け構造とし蓋・枠・底より構成する。
- (2) メータきょうの蓋は、金属探知機で反応を示すよう鉄線等を埋め込んだ構造であること。
- (3) メータきょうの蓋は、枠より着脱自在とする。
- (4) メータきょうの蓋、枠、底についてはそれぞれ互換性を有すること。
- (5) メータの点検及び交換、補助止水栓の操作に支障がなく、メータの機能に影響を及ぼさないこと。
- (6) メータきょうの蓋裏に縦 70mm、横 220mm 以上の長方形平面部を設けること。ただし、水道局との協議により、これと同等の機能を有すると認められた場合は、この限りではない。

4 材料及び製造方法

蓋、枠、底の材料はFRP、PP、GFPP及びABS樹脂とし、以下の区分の通りとする。

蓋	枠	底
FRP、ABS又はGFPP	ABS、PP	ABS、PP

- ・FRPはガラス繊維強化不飽和ポリエステル樹脂とし、材料を加熱プレス成形したものであること
- ・GFPPはガラス繊維強化ポリプロピレン樹脂とし、射出成型機により成型したものであること
- ・ABSはアクリロニトリル・ブタジエン・スチレン共重合樹脂とし、射出成型機により成形したものであること
- ・PPはポリプロピレン樹脂とし、射出成型機により成形したものであること

※ 泥除板については、PP、PE又はその同等品とする

5 外観、形状及び寸法

- (1) 枠、底の色調は黒色（ブラック）とし、蓋の色調は「J I S Z 8721 三属性による色の表示方法」により次のとおりとする。

標準色	三属性による表示
ネイビーブルー	5PB 2/6に近似

- (2) メータきょうの内外面は滑らかで有害な傷、割れ、ソリ、その他有害な欠点がないこと。
 (3) 形状、寸法、構造は別紙参考図によることとし、差異がある場合は水道局と協議すること。
 (4) メータきょうの種類及び適用水道メータは次によるものとする。

樹脂製メータきょうの種類（名称）	適用水道メータ
樹脂製メータきょう小	13mm
樹脂製メータきょう中	20mm、25mm

6 製品検査（別図参照）

検査方法及び検査基準は各項の通りで、仕様値に適合しなければならない。

6-1 残留たわみ量

メータきょうを別図のように試験機定盤の上に載せ、蓋の上部中央に良質の板ゴム（200mm×125mm×6mm）を敷き、その上に鉄製載荷板（200mm×125mm×30mm）を載せる。

その鉄製載荷板の長辺、中心縁で、直近の蓋に2個のダイヤルゲージを置き、鉄製載荷板の鉛直方向に5.0mm/minの速さで11.8KN(1,200kgf)まで荷重を加える。

1分間保持しその荷重を取り去り、更に1分間経過後、2個のダイヤルゲージ指示値の平均値を残留たわみ量とし測定する。

検査基準は次表の通りで、この値に適合しなければならない。

残留たわみ量	基準
	2mm以内であること

なお、メータきょうの試験温度は20℃±3℃とする。

6-2 静荷重試験

メータきょうを試験機定盤の上に載せ、蓋の上部中央に良質の板ゴム（200mm×125mm×6mm）を敷き、その上に鉄製載荷板（200mm×125mm×30mm）を載せ、その箇所を鉛直方向に5mm/minの速さで荷重を加える。

検査基準は次表の通りで、この値に適合しなければならない。

※破壊荷重	基準
	16.7KN(1,700kgf)以上

※ 破壊荷重は試験機が示す最大値とする。

なお、メータきょうの試験温度は20℃±3℃とする。

6-3 落球衝撃試験

この検査に納入する製品より1組を抽出し検査を行う。

検査は製品の蓋の中心に鋼球（重さ3Kg）を自然落下させる。但し、落下回数は1回とし、次の検査基準に適合しなければならない。

鋼球の重量	鋼球高さ	基準
3Kg	2m	貫通破壊しないこと

なお、メータきょうの試験温度は20℃±3℃とする。

6-4 側圧試験

試験機定盤の上に砂袋を載せ、その上にメータきょうの蓋上面が直角になるように載せ、さらに砂袋を載せ、砂袋荷重が均一にかかる様に加圧板を載せ、鉛直方向に 30mm/min の速さで荷重を加える。

検査基準は次表の通りで、この値に適合しなければならない。

蓋枠の嵌合はずれ	基準
	2. 94KN(300kgf) 以上で蓋の脱落がないこと

※ 加圧板は 520mm×200mm とし、砂袋には湿った砂を入れる
なお、メータきょうの試験温度は 20℃±3℃とする。

7 製作及び表示

製作者等は、登録された樹脂製メータきょうを出荷する場合、製作者等の商標を蓋の裏面に表示しなければならない。

8 凍結防止対策

メータの凍結が予想される場所に使用する樹脂製メータきょうは、蓋の裏に発砲スチロール等の保温材を装着し保温効果を有するものとし、保温材は、接着剤、はめ込み等により容易に外れないように取付けること。

9 一般事項

検査は原則として本市が検査日及び検査場所をあらかじめ決定し、上記検査方法にて年一回行うこととする。

但し、本市が不必要と認めた場合はこれを省略することができる。なお、検査に供する製品については製造業者の負担とする。

10 疑義解釈

この仕様書に疑義が生じた場合については、水道局と製作者等の協議とする。

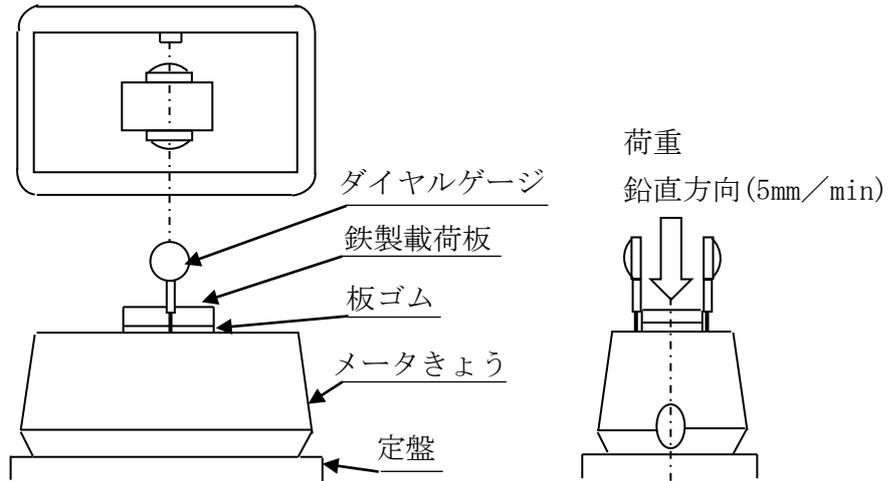
11 その他

登録された横浜型材料を水道局に納入する場合については、購入仕様書によることとする。

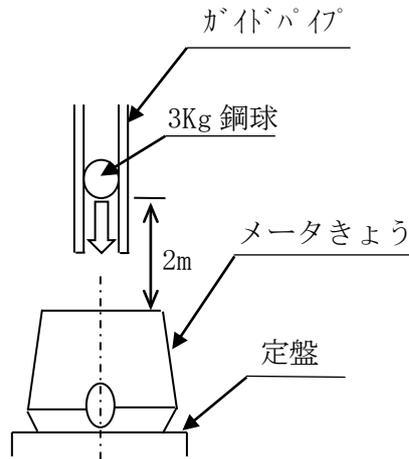
附 則 この仕様書は、令和 5 年 2 月 15 日から適用する。

附 則 この仕様書は、令和 5 年 月 日から適用する。

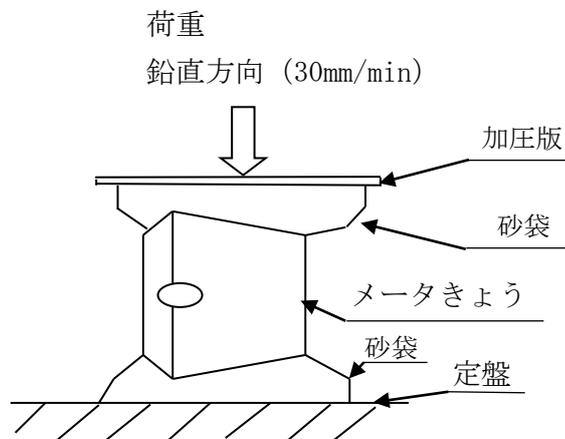
別図



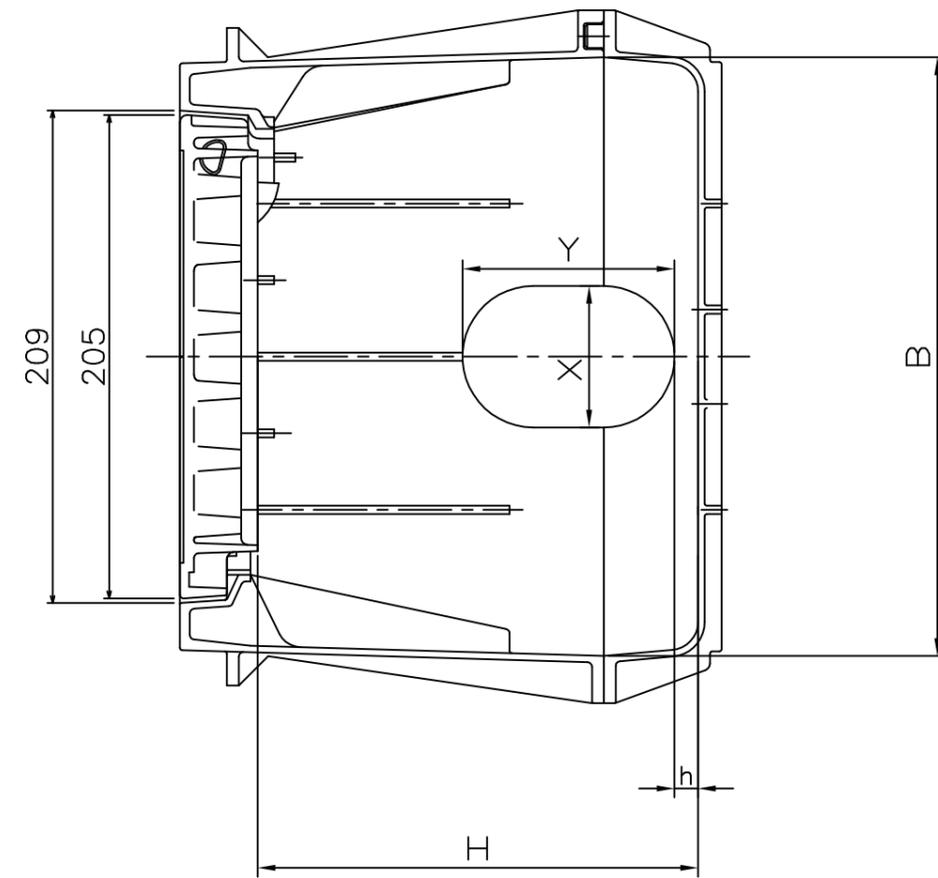
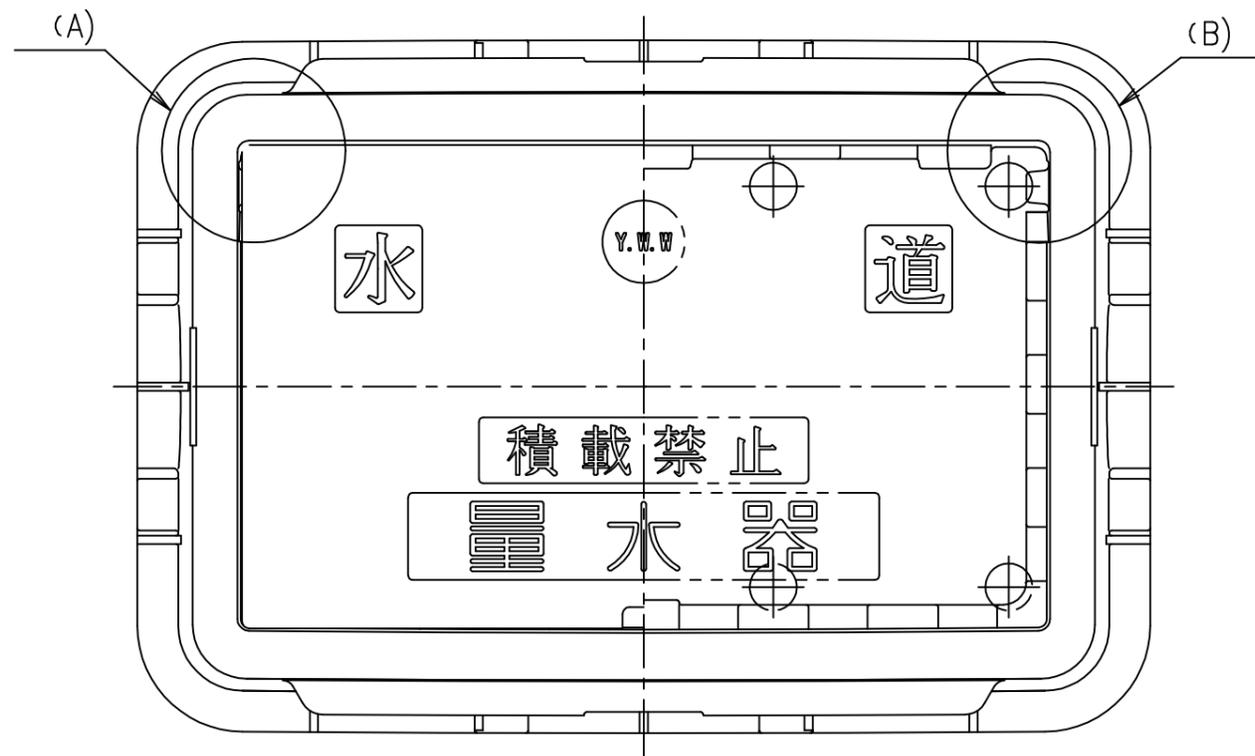
製品検査 6-1、6-2 残留たわみ量及び静荷重試験方法



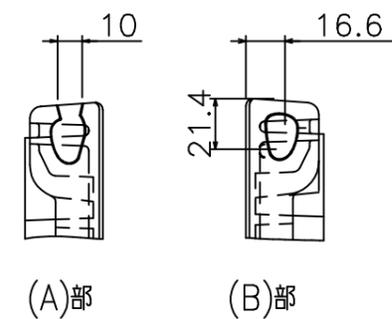
製品検査 6-3 落球衝撃試験方法



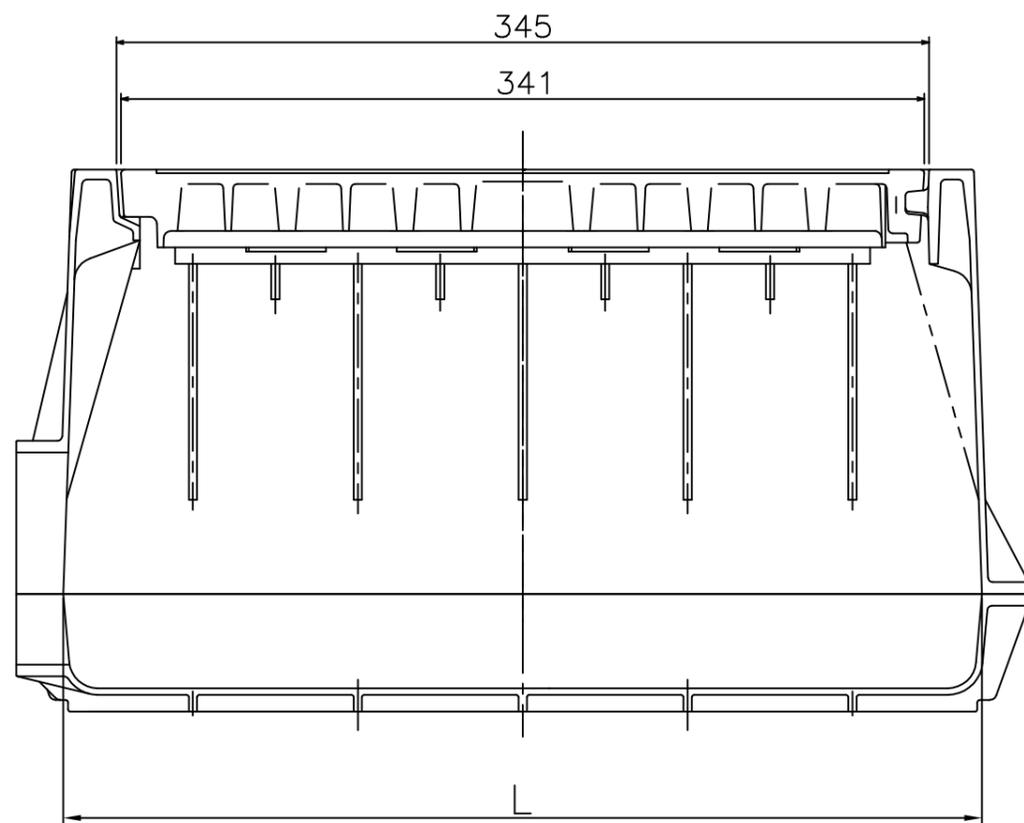
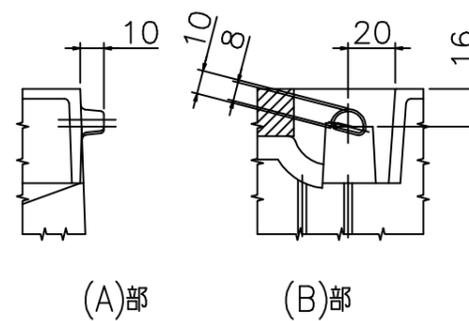
製品検査 6-4 側圧試験方法



蓋ヒンジ部



受枠ヒンジ部

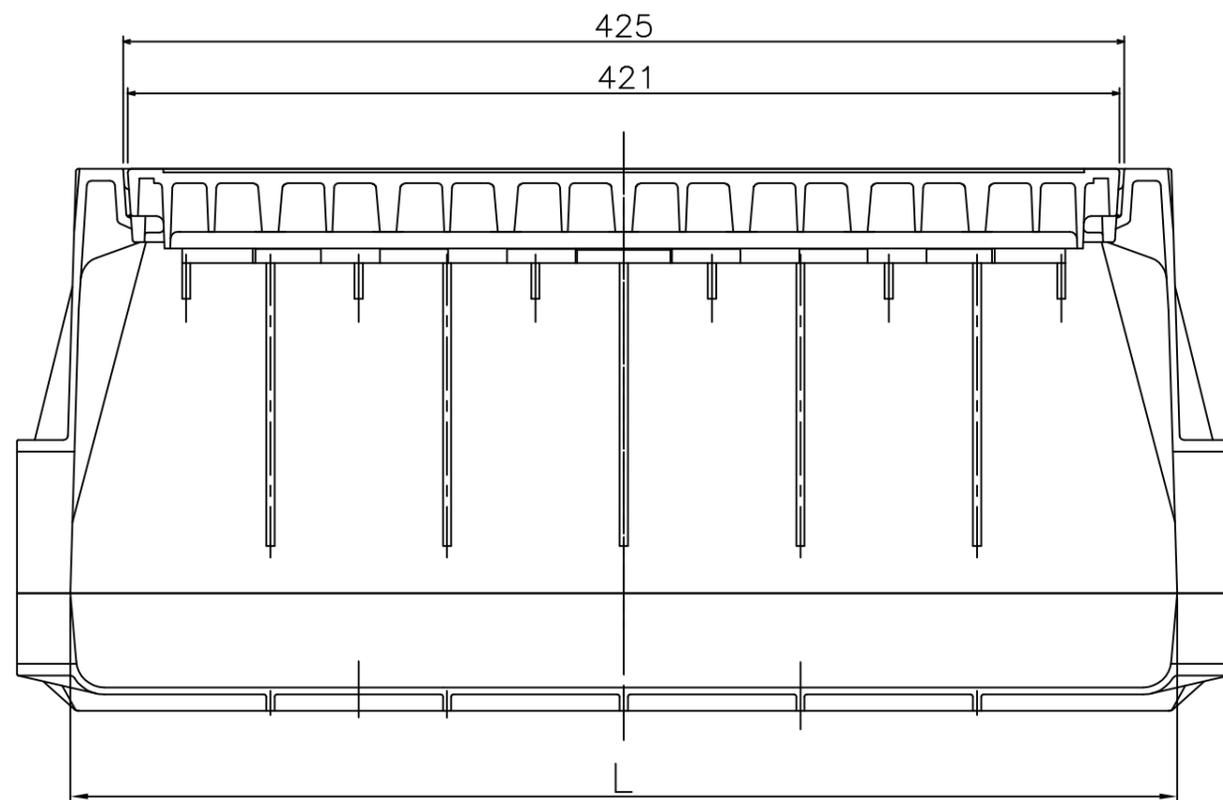
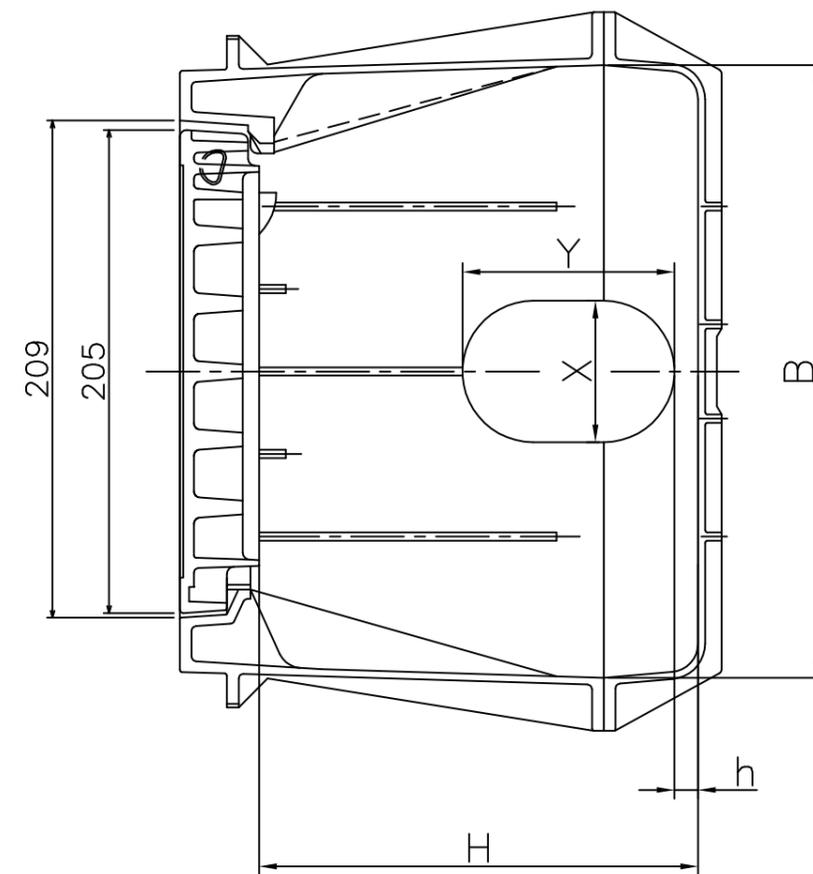
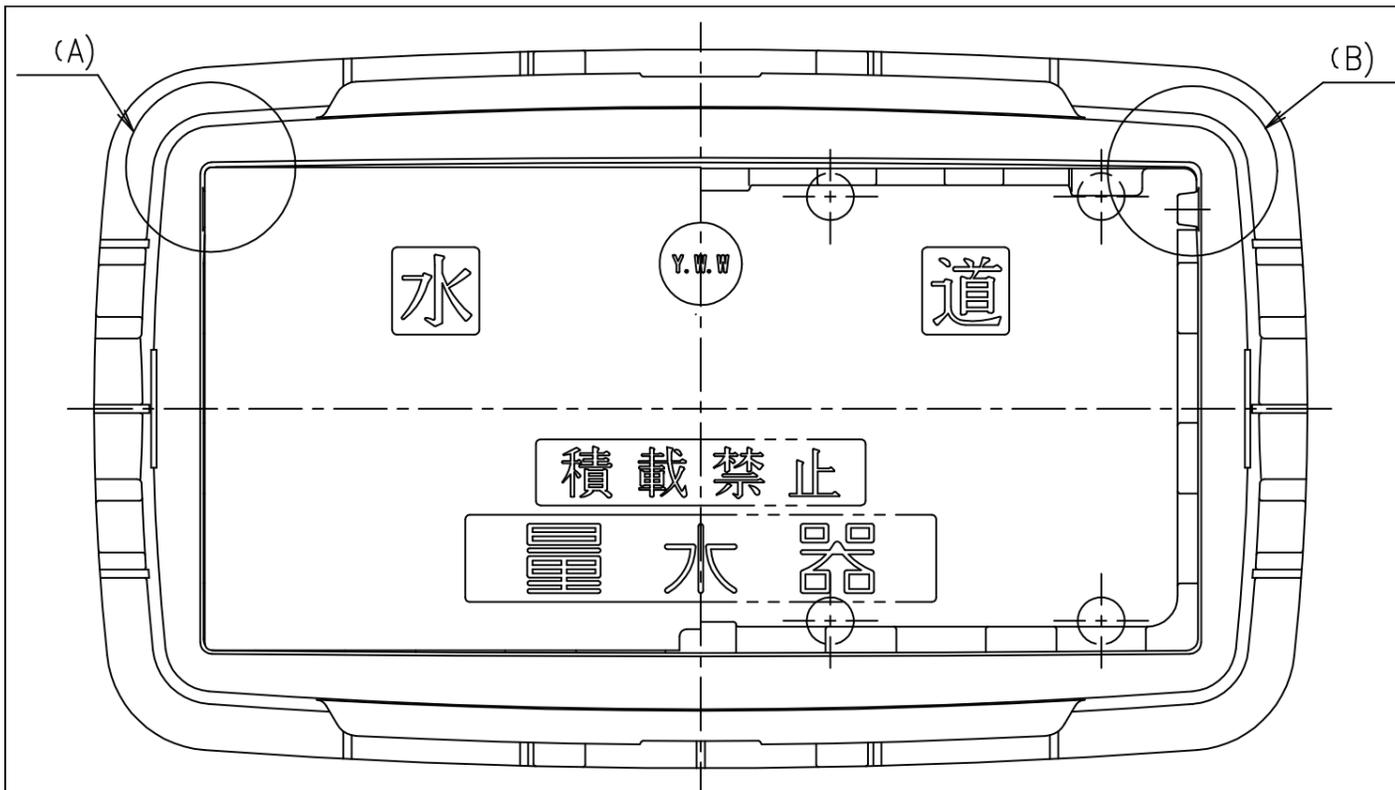


	最小寸法	最大寸法	備考
L	390	-	上限なし
B	200	-	上限なし
H	175	200	
h	-	10	上限のみ
X	60	90	
Y	90	90	

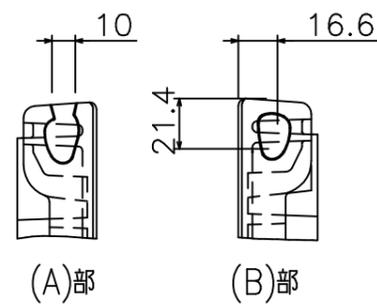
年月日	尺度
令和5年9月14日	FREE

品名	メータきょう小
----	---------

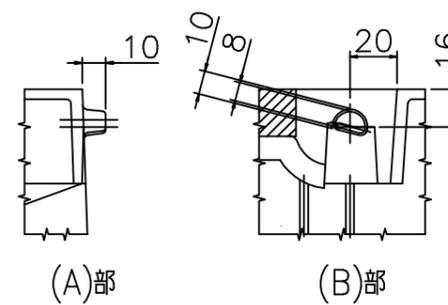
横浜市水道局



蓋ヒンジ部



受枠ヒンジ部



	最小寸法	最大寸法	備考
L	460	—	上限なし
B	200	—	上限なし
H	185	210	
h	—	10	上限のみ
X	60	90	
Y	90	90	

年月日	尺度
令和5年9月14日	FREE

品名	メータきょう中
----	---------

横浜市水道局